様式５

平成　26　年　3　月　27　日

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

（　3　年計画の　　１年度目）

１．研究課題

（和文）人文情報学の基礎研究

（英文）　Fundamental topics in Digital Humanities

２．研究代表者

（氏名）　ウィッテルン　クリスティアン（Wittern, Christian）

３．研究期間

平成　　２５　年　　４　月　から　平成　２８年　３　月　まで

４．研究目的（400 字程度）

人文情報学（欧米では最近Digital Humanities、略して　DH）というのは、ここで特に人文学諸分野に於ける文献学を基礎分野として、成立中の新しい研究領域とします。対象となるのは人文学に於けるデジタル資料のあり方、その資料に対しての方法論や研究手段等々。本共同研究班では特にデジタル・テキストの規格、取り扱い方、処理、研究方法などについての基礎研究行う予定です。

この数十年以来、多くの漢籍や古典はデジタル化されていることによって、東方学や中国に関するすべての研究が大きく変わっています。　研究者が現在直面している問題はもはや資料の乏しい状況よりは、大量のデータのなかに精密と正確に今必要とする情報を絞っていけるか、さらに、その整理と検討はどう行うべきかが問題です。

本共同研究班は文献研究が行う人文科学の諸分野、特に東方学の研究、つまり古典の校正、解読、注釈、翻訳等を支援する方法や規格を提唱して、さらにそれに基づいた研究支援ツール見本の実装を目指しています。そのツールの具体的な機能等は研究進行と共に明らかになるだろうが、現時点では文字としてのテキストと画像テキストの連携、複数の版本の扱い、テキスト批判、引用文や逸文の検出、語彙や実例の検討、テキストマイニング、テーマ・ジャンルなどでの絞り検索などが考えられます。　研究者の需要を再検討して、テキスト研究に必要な道具で２１世紀の人文学研究の基盤を強化することは本研究の最大の目的です。

５．本年度の研究実施状況（400 字程度）

期間の始めにはまず研究課題に対しての認識と期待を班員の間確認しながら、この研究班の具体的な目標を定め、進展ほうほうについて合意しました。それからテキスト研究の基礎方法である文献学の手法をデジタル媒体で欧米でどんな様に継承されて、漢字文化圏ではどんな応用の可能性があるかについて議論して、漢籍の研究を支援する分散型のシステムを目指すことに決めました。　このシステムは基本的に二つの部分から構成される、「マンドク」というクライアントシステムと「漢リポ」(漢籍リポジトリ)というサーバーシステムである。　本年度はおもにマンドクの開発に取り組みました。

このシステムでは国際的な連携も目指し、そのために１２月に国際ワークショップを開催し、台湾から講師を招き、講演を頂きました。

６．研究成果の概要（400 字程度）

この研究班の研究成果は三つに分けられます：
（1）議論に基づいた開発したアップリケーション(上記のマンドクとカンリポ)
（2）漢籍リポジトリで公開する文献と資料
（3）研究方法等に関する口頭発表と論文

(1)については「マンドク」のプリービューパッケージを二回作成しました、漢籍リポジトリに関してもプリービューの準備が始まった、一部は既に実行を初めました。
(2)については資料準備の段階に入りまして、班員の要望に応じて先ず仏典と道教関連資料から手をつける。
(3)に関しては班長は二回国際研究集会で口頭発表が行った。

７．共同研究会に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）
議論の進展は随時ウエッブ公開となっています(http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~wittern/kkh/dhbasic/を参照。)、またマンドクはhttp://www.mandoku.org、漢リポはhttp://gl.kanripo.orgそれぞれ公開予定です。

８．本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区　　分	機関数	受入人数			延べ人数		
			外国人	大学院生		外国人	大学院生
学内（法人内）	3	7	2		60	20	
国立大学	2	4			36		
公立大学							
私立大学	2	3			30		
大学共同利用機関法人							
独立行政法人等公的研究機関							
民間機関							
外国機関	1	2	2		2	2	
その他							
計	8	16	4		128	22	

研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。
※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。
※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。
（例）・１つの共同利用・共同研究課題で２人を共同研究員として３日間受け入れた（参加した場合）：参加人数２人、延べ人数６人

９．本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数
（参加研究者がファーストオーサーであるものを対象）

論文数	1	
うち国際学術誌に掲載された論文数	（　　）	（　　）

※下段の（　）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

（注）分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で論文数を記載。

役割			
論文数			
	うち国際学術誌に掲載された論文数	（　　）	（　　）

※下段の（　）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

※　高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なものを以下に記載。

※　拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

（注）インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載上で、掲載雑誌名等を記載。

拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由			
掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名